Ｖ施工のポイント箇条書き一覧表　･･･過去問H7～H28（全文正解肢、短文化、長文＆図有＆極端に難しい問題は割愛、類似問題は出来る限り統一化）

1. 施工計画
ネットワークによる工程表において、トータルフロートが最小のパスをクリティカルパスといい、これを重点管理することが工程管理上、最も重要である。
各種工事が複雑に関連している部分の工程管理に、工程調整に適しているネットワークによる工程表を用いた。
ネットワークによる工程表において、トータルフロートが最小のパスをクリティカルパスといい、これを重点管理することが工程管理上、最も重要である。
工事種別施工計画書は各工事ごとに作成するものであるが、工種によっては省略することもある。
施工計画を立てるに当たっては、設計図書を重視した。
工種別施工計画書には、工期、使用材料、施工方法、品質管理、安全管理、養生方法等について記載した。
施工要領書は、個々の工種について、工期、使用材料、施工方法、品質管理、安全管理、養生方法等について記載した。
施工計画書は、工事の着手に先立ち、主要な工事項目とともに、監督者による段階確認の日程も記入し、監理者の承認を受ける。
工種別の施工計画書は、一工種の施工の着手の前に、総合施工計画書に基づいて定めたものであり、施工要領書を含む。
工種別の施工計画書は、どの工事においても共通的に利用できるように便宜的に作成されたものではなく、対象となる個別の工事について具体的に検討したうえで作成する必要がある。
請負者から提出される総合施工計画書等を受ける監理者は、品質管理は承諾したものとするが、仮設物等のその他の資料は受け取っただけとなる。
総合施工計画書は、工事の着手に先立ち、総合仮設を含めた工事の全般的な進め方や、主要工事の施工方法、品質目標と管理方針、重要管理事項等の大要を定めたものである。
山留め工事において、隣地の高低差の大きい偏土圧が作用することが予想されるので、地盤アンカー工法を採用することとした。
山留めに用いる地盤アンカー工法において、「付着型」とは「ドリル」及び「グラウンドと地盤」のそれぞれの境界面であるので、この境界面にセメントミルクを加圧する計画とした。
工程計画において、仕上工事は、施工段階が多いため、躯体工事より工程の余裕を多く計画する。
全体工程表の作成に当たっては、躯体工事には、雨天、祝祭日及び季節的な労働力の減少に対する余裕を見込んでおく。
施工者は、工事の着工に先立ち、主要な工事項目とともに、監理者の検査、承認等の日程を記入した基本工程表を作成し、監理者の承認を受ける。
工程表を作成するに当たっては、「風土等の影響」、「施工計画書作成」、「試験・検査」、「材料の調達」、「設置期間」を考慮するとともに、工事全体に対する余裕も見込む。
工期全体にわたる工事の施工に関しては、施工者は、全体工程表を作成し、工事の順序及び工期全体を監理者に提出しなければならない。設計図書等に定めがあるときは、速やかに是正されなければならない。
ターンバックル付き筋かいを有する建築物の鉄骨の建方において、建入れ直しに当たっては、その筋かいを用いずに架構の倒壊防止用ワイヤロープを兼用する計画とした。
ALCパネル工事の工程計画の作成において、下地鋼材の検討は、鉄骨に取り付けるため、鉄骨図の検討と同時に行わないといけない。
鉄骨の工作図は、施工性、構造細部の納まり、設備配管用の梁貫通スリーブ等の検討や調整を行ったうえで、監理者の承認を受ける。
積載荷重1t未満の本設エレベーターを工事用として仮使用する場合、設置報告書を労働基準監督署長あてに提出して落成検査を受けなければならない。
施工者は、鉄骨の工場生産に先立ち、工場生産者に、製作図、製作要領書、製品検査要領書、生産工程表、品質管理要領書等の作成を求め、提出させる。
コンクリートの乾燥収縮ひび割れの補修は、型枠取外し後、仕上材の施工前までにできる限り長期間経過した後に行う計画とする。
コンクリートポンプ工法において、軽量コンクリートの圧送距離が長い場合、軽量コンクリートの圧送性が普通コンクリートの圧送性よりも劣ることを考慮して、輸送管の呼び寸法を125A以上とする計画とした。
鉄筋コンクリート造の躯体工事で省力化を図る場合、鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事のうち、型枠工事の省力化を図ることが最も効果的である。
鉄骨鉄筋コンクリート造の建方の計画において、鉄骨工事本格工事前に仮ボルトだけで鉄骨を立てきれない場合があるので、注意しなければならない。
鉄骨の建方を進めるに当たって計画において、工事機械については、仮設計画とした。
仮設計画は、請負者がその責任において定めた。
総合仮設計画図には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工事用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示する。
躯体工事の工期の設定に当たっては、風雨による影響及び労働力の季節変動を見込む。
揚重運搬機械の選定に当たっては、揚重機の能力、建物の概要（規模、構造形式、工期、立地条件、揚重資材の種類、経済性等）を考慮する。
鉄骨工事の施工計画において、建方用の仮設材の数量は、工程表に基づき、工事期間及び転用回数を考慮して定めた。
仕上工事は、関連作業が多いので、作業員を多く投入しても工期短縮をはかりにくい。
市街地において、地階が深く広い建築物の場合、工事の安全性、周辺への影響等を考慮して、逆打ち工法を採用した。
根切り工事により発生する軟弱な粘性土は、場外搬出に当たり、産業廃棄物として処理した。
設計図書の特記仕様書と現場説明書との間に相違があったので、現場説明書を優先した。
山留め工事において、切ばり間隔が狭く、掘削機械の作業に支障をきたすので、盤圧計を切ばりの中央に設置することとした。
再生資源の利用の促進に関する法律の指定副産物には、上記、コンクリートの塊、木材が該当するが、瓦は該当しない。
シーリング工事において、目地への充填は、原則として、目地の交差部又はコーナー部から行う。
ガラス工事において、外部に面する網入り板ガラスの防錆処置は、ガラスの下辺小口及び縦小口下端から1/4の高さまで行う。
ISO 9001(JIS Q 9001)において、組織は、品質マネジメントシステムを確立し、文書化し、実施し、かつ、維持することとされ、その品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善することとされている。
高さ80mの建築物の鉄骨工事の建方を選び方式により行うので、建方用機械は、クライミング式大型タワークレーンを使用する計画とした。
鉄筋コンクリート造の建築物において、柱型枠にプレキャストコンクリート型枠を使用するので、各階のコンクリートの打込みは、「柱・壁」の垂直部と「はり・床」の水平部とを分割して行う計画とした。
コンクリートポンプからの輸送管の圧送負荷を少なくするためには、フレキシブルホースに代えて直管を使用する。
デッキプレートにコンクリートを打ち込んだ屋根スラブにアスファルト防水工事を行う場合、下地を十分に乾燥させた後、当該工事に着手する計画とした。
バリューエンジニアリング(VE)は、製品やサービスが果たすべき機能や性能を低下させることなく合理化を行い、製品等の機能とコストとの対比により得られる価値を向上させる手法である。
「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の規定に基づく住宅性能表示制度により「室内空気中の化学物質の濃度」を測定する場合、ホルムアルデヒドは、おおその濃度を測定表示する。
建築工事における総合的コストダウンは、設計内容の吟味し改善しなければならないとである。
仮設工事、土工事等は、施工者の施工計画により施工費の差が生じやすい工種である。
施工者は、監理者による鉄骨の工作図の検討と同時に、設備工事における梁貫通スリーブの位置及び大きさを検討する。
山留め工事において、隣地が住宅で、地下水位が高い軟弱な地盤を深く掘り下げる必要があったので、周辺地盤や構造物に与える影響の少ない場所打ち鉄筋コンクリート地中壁を採用した。
鉄筋コンクリート造の建物において、柱型枠内に設置するセパレーターの位置は、壁型枠と梁型枠との取合いを調整し、壁の中央付近で、かつ、両側とに計画した。
鉄骨造の高層建築物において、ガス圧接工法による鉄筋の接合工事の計画として、工事工程上、やむを得ない場合を除き、ガス圧接工法を採用した。
地下階がある建築物において、ソイルセメント壁による山留め壁は、鉄筋コンクリート造の地下外壁のコンクリートの外型枠としても使用する計画とした。
乗入れ構台の高さを周辺地盤より1.5m高く計画したので、構台面までのスロープは、1/10～1/6とすることから、水平距離を9m以上とする。
流動化コンクリートの打込みに当たって、先に打ち込んだコンクリート上面等の傾斜面に沿って、コンクリートを横流しとしない（分離が生じやすくなる）。
既製コンクリート杭の施工において、打撃による杭の施工において、杭頭調放杭を用いる計画とした。
鉄骨の建方において、高力ボルト接合を行うまでの間に使用する仮ボルトは、高力ボルトを使用して、全数締め付ける計画とした。
掘削する平面形状が単純な矩形で、周辺に特殊な条件がない敷地において、山留め切ばりにかかる軸力を測定する盤圧計は、切ばり各段ごとにX方向、Y方向に各1か所ずつ設置する計画とした
建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォームによる断熱材現場発泡工法において、吹付けが厚くなりすぎて表面仕上げに支障がある箇所は、カッターナイフ等により表層を除去して所定の厚さを確保する計画とした。
H形鋼を用いた鉄骨鉄筋コンクリートの梁へのコンクリートの打込みは、フランジの下端が空洞とならないように、フランジの片側から打ち込む計画とする。
解体工事でのPCBを含有する変圧器等は、PCBを含有する変圧器等を取り外したうえで、保管事業者である建築物の所有者に引き渡し、当該所有者の責任において処分する。
コンクリートの打込みで設備が隠蔽となる部分の工事の検査を工程の都合により行うことができない場合には、当該工事の監理者の承諾を受け、工事写真等による記録を残して工事を進める計画とした。
建設業法に基づき施工体制台帳を作成した特定建設業者は、建設工事の目的物を発注者に引き渡すまで、その施工体制台帳を工事現場に備え置く必要がある。
特記は、標準仕様書と異なる事項や標準仕様書に含まれていない事項について、質問回答書、現場説明書、特記仕様書及び図面において指定された事項をいう。
公共建築工事において、工事に関連して発見された文化財その他の埋蔵物の発見者としての権利は、発注者が保有する。
工事に使用する材料は設計図書に定める品質及び性能を有する新品とするが、仮設に使用する材料は所要の品質及び性能を有する中古品でよい。
標準仕様書は、建築物の一般的な施工方法、施工図書作成の合理化等を目的として、工事に使用される材料、試験、検査方法、施工方法等について、詳しく作成された書である。
品質管理計画書、品質管理組織、管理項目及び管理値などについては、工事監理者が具体的に記載するものである。
設計図書に選ぶべき専門工事業者の候補が記載されている場合は、その中から選定する。
山留め支保工において、火打材を用いない切ばりに作用する軸力の計測管理に当たっては、盤圧計を腹起しと切ばりの接合部に設置する。
H形鋼を用いた鉄骨鉄筋コンクリートの梁へのコンクリートの打込みは、フランジの片側からコンクリートを流し込み、反対側にコンクリートが上昇するのを確認した後、両側から打ち込むこととする。
建設業法に基づき施工体制台帳を作成した特定建設業者は、建設工事の目的物を発注者に引き渡すまで、その施工体制台帳を工事現場に備え置く必要がある。
実施工程表と実際の工程に差異が生じた場合、工事の進捗状況を記載した部分工程表を作成し、監督者の承認を受ける。
近隣の安全に対して行う仮設計画に必要な一切の手段は、契約書や設計図書に特別の定めがなかったので、受注者の責任において定めた施工計画書の提出を受けた。
ネットワーク表示による工程表において、トータルフロートが最小のパスをクリティカルパスといい、これを重点管理することが、工程管理上、重要である。
総合施工計画書は、工事の着手に先立ち、総合仮設を含めた工事の全般的な進め方や、主要工事の施工方法、品質目標と管理方針、重要管理事項等の大要を定めたものである。
建設業法に基づき施工体制台帳を作成した特定建設業者は、建設工事の目的物を発注者に引き渡すまで、その施工体制台帳を工事現場に備え置く必要がある。
積載荷重1t未満の本設エレベーターを工事用として仮使用する場合、設置報告書を労働基準監督署長あてに提出して落成検査を受けなければならない。
2. 現場管理
工事現場の安全衛生に関する管理は、現場代理人が責任者となり、建築基準法、労働安全衛生法、その他関係法令等に従って行う。
労働安全衛生法において、安全衛生責任者は、統括安全衛生責任者と労働者との連絡等を行わなければならないとされている。
労働安全衛生法において、事業者は、安全委員会及び衛生委員会を設けなければならないときは、それぞれの委員会の設置に代えて、安全衛生委員会を設置することができるとされている。
設計図書のうち、現場説明書と特記仕様書との間に相違がある場合、現場説明書を優先しなければならない。
設計図書間に相違がある場合の優先順位は、①質問回答書、②現場説明書、③特記仕様書、④設計図、⑤標準仕様書である。

本内容は、「過去問」について、不正解問題は正解の文面に、長文は可能な限り短文に変更する等して項目別での一覧表にまとめたものである。
文面は、過去問を参考にしていることから、（公財）建築技術教育普及センターとの過去問の使用許諾条件により、「会員講座」のみでの公開としている。
ここでは、参考として一部を公開しているものである（会員講座では全項目におけるポイント箇条書きを公開）。
※本内容は、通勤時等で日々熟読すると、試験時に不正解問題を読んだ時、「違う」と直感的に感じることができるようになる。